

## 2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年10月29日

上場会社名 東海エレクトロニクス株式会社  
 コード番号 8071 URL <https://www.tokai-ele.com/>

上場取引所 名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大倉 慎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部本部長 (氏名) 森田 誠

TEL 052-261-3211

四半期報告書提出予定日 2020年11月12日

配当支払開始予定日

2020年11月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	19,545	2.6	127	57.3	146	54.2	62	66.0
2020年3月期第2四半期	19,054	10.9	298	33.9	319	34.1	182	39.2

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 108百万円 (0.7%) 2020年3月期第2四半期 108百万円 (68.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	28.43	27.96
2020年3月期第2四半期	83.72	82.43

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	27,499	12,871	46.6
2020年3月期	20,086	12,876	63.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 12,806百万円 2020年3月期 12,810百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		52.00		52.00	104.00
2021年3月期		52.00			
2021年3月期(予想)				52.00	104.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	18.9	350	9.0	350	18.6	180	14.0	82.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	2,360,263 株	2020年3月期	2,360,263 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	178,144 株	2020年3月期	178,848 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	2,182,161 株	2020年3月期2Q	2,177,963 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により経済・社会活動が大きく制限を受け、景気が急速に悪化し厳しい状況の中で推移しました。6月以降には感染拡大の防止策を講じつつ、経済活動を活性化化する動きが見られるものの、感染終息時期が見通せず、景気の先行きについては引き続き不透明な状況となっております。

このような経済環境のもと、当社グループは2020年4月1日に藤田電機工業株式会社の半導体販売事業の一部を統合し、日々進化する自動車市場での電動化、自動運転化への取り組みに対するソリューション提案を強化していくため、国内営業本部に中部・関西第3カンパニーを新設しました。

また、2020年度からの3カ年計画である中期経営計画(Value Fusion 2022：VF22)を策定し、VF22のテーマである「1. 共に手を取り、未来への価値を創ろう～お客様の期待を超える感動を創り出そう～」、「2. より豊かな生活に、より良い環境作りに貢献～自動車、医療、環境・エネルギーなど社会・生活インフラへの注力～」をテーマに更なる成長を目指し各施策に取り組んでおります。自動車、医療、環境・エネルギー、IoT・FA、ソフトウェアなどの各市場分野に対して、新しいソリューションを提案していくとともに、自動車と環境、自動車と医療など市場の垣根を超え有効なソリューションとなる技術や情報を提案し、各事業分野のスペシャリスト、ソリューションプロバイダーとして更なる付加価値向上に取り組んでまいります。

当社グループの業績においては、自動車分野は新型コロナウイルス感染症に伴い半導体デバイスの販売に影響を受けたものの、藤田電機工業株式会社との事業統合により取引規模が拡大したことから、前年同期を上回る結果となりました。一方、FA・工作機械分野は半導体設備関連や新型コロナウイルス対策機器の需要などは堅調に推移しましたが、設備投資の先送りによる需要低迷の影響を受けたことから、前年同期を下回る結果となりました。また、情報通信分野においても、新型コロナウイルス感染症の影響に伴いお客様の生産活動の停止や生産減少の影響を受けたことから、前年同期を下回る結果となりました。

上記の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は195億4千5百万円（前年同期比2.6%増）となり、利益面においては藤田電機工業株式会社との事業統合に伴いのれん償却の費用が発生したことなどから営業利益1億2千7百万円（前年同期比57.3%減）、経常利益1億4千6百万円（前年同期比54.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益6千2百万円（前年同期比66.0%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、藤田電機工業株式会社の半導体販売事業の一部を統合したことに伴い、中部・関西第3カンパニーを新設しており、当該変更後のセグメント区分に基づき比較しております。

## ○関東・甲信越カンパニー

情報通信分野においては、情報機器向けの電子デバイス等の販売が堅調に推移しました。自動車分野、FA・工作機械分野、医療分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様の生産減少、需要低迷の影響を受け、売上高は12億4千8百万円（前年同期比23.5%減）となりました。

## ○中部・関西第1カンパニー

FA・工作機械分野においては、米中貿易摩擦の影響や新型コロナウイルス感染症の影響を受け設備投資の先送りにより需要低迷となりました。医療分野においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、医療設備、眼科医療機器への電子デバイスの販売が減少したことから、売上高は32億1千6百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

## ○中部・関西第2カンパニー

FA・工作機械分野においては、半導体デバイスの販売は堅調に推移しました。自動車分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響によりお客様の生産が大幅に縮小したことから、売上高は18億2千5百万円（前年同期比12.9%減）となりました。

## ○中部・関西第3カンパニー

自動車分野においては、第1四半期連結会計期間において新型コロナウイルス感染症の影響によるお客様の生産縮小に伴いマイコンなどの半導体デバイスの販売は減少となりました。第2四半期連結会計期間以降、お客様の生産は回復基調となっていることに加え、藤田電機工業株式会社の半導体販売事業の一部を統合したことにより取引規模が拡大したことから、売上高は85億4千4百万円（前年同期比47.4%増）となりました。

## ○オーバーシーズ・ソリューションカンパニー

FA・工作機械分野においては、中華圏での電子デバイス販売は堅調に推移しました。自動車分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、北米ではお客様の生産活動停止に伴う大幅な取引減少、中華圏・東南アジア圏においてはお客様の生産縮小に伴う取引の減少などにより、半導体デバイスの販売が大幅に減少しました。また、情報通信分野においても、新型コロナウイルス感染症の影響によるお客様の生産縮小により、OA機器向けデバイスの需要が中華圏、東南アジア圏ともに大幅に減少したことに加え、中華圏における健康機器向けデバイス販売の減少が続いたことから、売上高は36億9千5百万円（前年同期比23.1%減）となりました。

## ○システム・ソリューションカンパニー

航空宇宙分野においては、設備更新及び作業改善システムなどの受注が増加しました。FA・工作機械分野においては、半導体設備関連及び新型コロナウイルス対策機器の需要が堅調に推移した結果、売上高は10億1千3百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産・負債・純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は274億9千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ74億1千3百万円の増加となりました。主な要因は、藤田電機工業株式会社との事業統合などに伴い売上債権が32億7千5百万円、たな卸資産が25億7千万円増加したことに加え、のれんの取得などにより無形固定資産が10億8千8百万円増加したことなどによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は146億2千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ74億1千7百万円の増加となりました。主な要因は、藤田電機工業株式会社との事業統合に伴い仕入債務が3億5千万円増加したことに加え、増加する運転資金に対応する資金調達として短期借入金25億円、長期借入金38億円を計上したことなどによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は128億7千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ4百万円の減少となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金が1億2百万円増加しましたが、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益6千2百万円の計上があったものの、配当金の支払1億1千3百万円を実施したことにより5千1百万円減少したことに加え、為替換算調整勘定が5千6百万円減少したことなどによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ5百万円増加し、20億4千2百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益1億4千6百万円、仕入債務の増加3億6千1百万円などの収入がありましたが、藤田電機工業株式会社との事業統合などに伴い売上債権の増加32億9千8百万円、たな卸資産の増加25億9千3百万円などの支出がありました。

この結果、営業活動によるキャッシュ・フローは56億2千1百万円の支出(前年同期は2億2千7百万円の支出)となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、藤田電機工業株式会社との事業統合に伴い無形固定資産取得による支出4億6千1百万円などの支出がありました。

この結果、投資活動によるキャッシュ・フローは4億7千4百万円の支出(前年同期は5千8百万円の支出)となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額1億1千7百万円、リース債務の返済による支出6千1百万円などの支出がありましたが、藤田電機工業株式会社との事業統合に伴い短期借入金の増加額25億円、長期借入れによる収入38億円などの収入がありました。

この結果、財務活動によるキャッシュ・フローは61億2千1百万円の収入(前年同期は1億7千4百万円の支出)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年4月28日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。  
今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,036,676	2,042,316
受取手形及び売掛金	6,774,587	7,699,801
電子記録債権	907,528	3,257,443
たな卸資産	5,800,051	8,370,344
その他	267,793	642,548
流動資産合計	15,786,637	22,012,453
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,902,985	1,902,985
その他(純額)	703,211	702,100
有形固定資産合計	2,606,196	2,605,085
無形固定資産		
のれん	—	869,941
その他	74,376	293,014
無形固定資産合計	74,376	1,162,955
投資その他の資産		
投資有価証券	915,261	1,068,573
その他	703,948	650,412
投資その他の資産合計	1,619,209	1,718,985
固定資産合計	4,299,782	5,487,026
資産合計	20,086,419	27,499,480
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,288,705	4,396,469
電子記録債務	1,639,815	1,882,361
短期借入金	—	2,500,000
未払法人税等	35,139	70,844
賞与引当金	144,271	127,983
役員賞与引当金	79,068	28,769
その他	577,908	1,365,445
流動負債合計	6,764,908	10,371,873
固定負債		
長期借入金	—	3,800,000
退職給付に係る負債	394,859	403,270
その他	49,894	52,352
固定負債合計	444,754	4,255,623
負債合計	7,209,663	14,627,497
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,075,396	3,075,396
資本剰余金	2,511,009	2,511,009
利益剰余金	8,004,320	7,952,791
自己株式	△353,548	△352,176
株主資本合計	13,237,177	13,187,020
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	314,407	417,350
土地再評価差額金	△662,775	△662,775
為替換算調整勘定	△78,698	△134,813
その他の包括利益累計額合計	△427,066	△380,238
新株予約権	66,645	65,201
純資産合計	12,876,756	12,871,983
負債純資産合計	20,086,419	27,499,480

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	19,054,670	19,545,225
売上原価	16,628,792	17,349,022
売上総利益	2,425,877	2,196,202
販売費及び一般管理費	2,127,086	2,068,515
営業利益	298,790	127,687
営業外収益		
受取利息	6,482	1,276
受取配当金	14,279	12,050
仕入割引	4,107	3,957
不動産賃貸料	14,733	14,366
その他	3,847	9,505
営業外収益合計	43,449	41,156
営業外費用		
支払利息	4,915	13,496
売上債権売却損	4,818	—
為替差損	5,873	2,315
不動産賃貸原価	7,355	6,955
その他	257	2
営業外費用合計	23,221	22,769
経常利益	319,018	146,074
税金等調整前四半期純利益	319,018	146,074
法人税、住民税及び事業税	109,590	83,153
法人税等調整額	27,083	879
法人税等合計	136,674	84,032
四半期純利益	182,344	62,041
親会社株主に帰属する四半期純利益	182,344	62,041

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	182,344	62,041
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,361	102,945
為替換算調整勘定	△70,867	△56,114
その他の包括利益合計	△74,229	46,830
四半期包括利益	108,115	108,871
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	108,115	108,871
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	319,018	146,074
減価償却費	120,540	116,385
のれん償却額	—	96,660
受取利息及び受取配当金	△20,761	△13,327
支払利息	9,734	13,496
不動産賃貸料	△14,733	△14,366
不動産賃貸原価	7,355	6,955
売上債権の増減額 (△は増加)	188,974	△3,298,107
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△30,234	△2,593,704
仕入債務の増減額 (△は減少)	△455,413	361,387
その他	△207,015	△411,737
小計	△82,534	△5,590,283
利息及び配当金の受取額	20,761	13,327
利息の支払額	△9,734	△13,496
法人税等の支払額	△155,745	△30,562
営業活動によるキャッシュ・フロー	△227,252	△5,621,015
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△52,713	△23,237
無形固定資産の取得による支出	△13,992	△461,769
投資有価証券の取得による支出	△7,471	△5,354
投資不動産の賃貸による収入	14,733	14,366
投資不動産の賃貸による支出	△1,537	△1,573
その他	2,192	2,843
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58,789	△474,724
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増加額	—	2,500,000
長期借入れによる収入	—	3,800,000
リース債務の返済による支出	△65,407	△61,422
自己株式の取得による支出	△60	△209
ストックオプションの行使による収入	7	0
配当金の支払額	△109,465	△117,187
財務活動によるキャッシュ・フロー	△174,925	6,121,181
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42,741	△19,801
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△503,709	5,640
現金及び現金同等物の期首残高	2,497,480	2,036,676
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,993,770	2,042,316

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループでは、固定資産の減損会計や繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りについて、四半期連結財務諸表作成時において入手可能な情報に基づき実施しております。新型コロナウイルス感染症による当社グループ事業への影響は、事業によってその影響や程度が異なるものの、営業収益減少等の影響がある事業については、2021年3月期末にかけて徐々に回復する仮定に基づき、会計上の見積りを行っております。なお、この見積りについては前連結会計年度末から変更はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							計
	関東・甲信越カンパニー	中部・関西第1カンパニー	中部・関西第2カンパニー	中部・関西第3カンパニー	オーバーシーズ・ソリューションカンパニー	システム・ソリューションカンパニー		
売上高								
外部顧客への売上高	1,631,740	3,726,446	2,096,820	5,795,445	4,804,880	999,336	19,054,670	
セグメント間の内部売上高又は振替高	876,235	137,412	14,736	19,874	104,510	6,498	1,159,268	
計	2,507,975	3,863,859	2,111,557	5,815,320	4,909,390	1,005,835	20,213,939	
セグメント利益又は損失(△)	99,713	112,433	△30,317	340,422	4,497	76,588	603,337	

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	603,337
セグメント間取引消去	6,117
全社費用(注)	△310,663
四半期連結損益計算書の営業利益	298,790

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	関東・甲信 越カンパニ ー	中部・関西 第1カンパ ニー	中部・関西 第2カンパ ニー	中部・関西 第3カンパ ニー	オーバーシ ーズ・ソリ ューション カンパニー	システム・ ソリューション カンパ ニー	計
売上高							
外部顧客への売上高	1,248,916	3,216,651	1,825,869	8,544,798	3,695,590	1,013,398	19,545,225
セグメント間の内部 売上高又は振替高	606,977	145,792	3,600	8,601	206,790	12,255	984,018
計	1,855,894	3,362,443	1,829,469	8,553,400	3,902,381	1,025,654	20,529,243
セグメント利益又は損 失(△)	9,912	103,213	△11,251	213,647	△10,539	70,167	375,150

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	375,150
セグメント間取引消去	23,346
全社費用(注)	△270,809
四半期連結損益計算書の営業利益	127,687

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、藤田電機工業株式会社の半導体販売事業の一部を統合し、それぞれ培ってきた経験、技術、提案力を結集して、より良いサービスをお客様に提供できる体制を構築するため、中部・関西第3カンパニーを新設し管理区分の変更を行っております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該組織変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

中部・関西第3カンパニーセグメントにおいて、藤田電機工業株式会社の半導体に関わる販売事業の一部を事業譲受したことによるのれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては869,941千円であります。